



Osaka Gakuin University Repository

Title	海岸ツィムシアン語の所有表現 Expressing Possession in Coast Tsimshian
Author(s)	笹間 史子 (Fumiko Sasama)
Citation	大阪学院大学 外国語論集 (OSAKA GAKUIN UNIVERSITY FOREIGN LINGUISTIC AND LITERARY STUDIES), 第 62 号 : 29-46
Issue Date	2010.12.31
Resource Type	Research Note/ 研究ノート
Resource Version	
URL	
Right	
Additional Information	

海岸ツィムシアン語の所有表現

笹 間 史 子

Expressing Possession in Coast Tsimshian

Sasama, Fumiko

1. はじめに

本稿は、海岸ツィムシアン語の所有表現、とくに名詞と後続の所有（人称）接尾辞との間にあらわれる要素について記述することを目的とする。

海岸ツィムシアン語は、カナダ北西部で話される北米先住民語のひとつである。海岸ツィムシアン語において、所有は、名詞に所有人称接尾辞をつけるか、あるいは所有接尾辞をつけて所有者を表す名詞を後続させることによって表される。所有に用いられる接辞を(1), (2)に、例を(3), (4)にあげる。

(1) 所有人称接尾辞

1 単	-(j)u ^{1,2}	1 複	-m
2 単	-n	2 複	-səm
		3 単／複	-t

(2) 所有接尾辞

- a 普通名詞の前³
- s 固有名詞の前

(3) nək^wá:t-u⁴

father-1sg.Pos
my father

(4) kslù:sk-ə-s Tiffany

shirt-IV-Pos Tiffany
Tiffany's shirt

1 海岸ツィムシアン語の表記は音素表記による。海岸ツィムシアン語の音素は以下の通り。子音 p, t, k^l, k, k^w, q, p^h, t^h, k^h, k^h, k^wh, p̄, t̄, k̄^l, k̄, k̄^w, q̄, ʔ, c[ts-dz], c^h, č, ʃ, s, ʃ, x[χ], h, m, n, l, j, w, w̄, m̄, n̄, l̄, j̄, ʉ, w̄, 母音 i, a, o, u, ū, ə, i:, e:, a:, o:, u:, u:。英語からの借用語が音韻的に海岸ツィムシアン語化されない形であらわれる場合には、英語の綴りをそのまま用い、イタリック体にて示す。

2 1人称単数所有人称接尾辞が母音または半母音に後続する場合には、-u のかわりに -ju が用いられる。

3 「普通名詞」と「固有名詞」の別は、一般に考えられているものとはやや異なる。固有名詞として扱われるのは、基本的に人名のみであり、それ以外は普通名詞として扱われる。他の言語でしばしば固有名詞として扱われる地名や民族名は、海岸ツィムシアン語では普通名詞として扱われる。2 セットある独立人称代名詞のうち、自動詞主語・他動詞主語・他動詞目的語を表すのに用いられるセットは固有名詞扱い、斜格に用いられるもう一方のセットは普通名詞扱い（ただし3人称を除く）である。普通名詞／固有名詞のどちらとして扱われるか一貫しないのは親族名称で、所有者を明示した親族名称は特定の人間を指すため、固有名詞として扱われることがある。（2人称の所有接尾辞がついた親族名称は、固有名詞扱いされるのが一般的である。）

なお、所有接尾辞-aは、母音または共鳴音のあとでØとなる。

4 以下、海岸ツィムシアン語の例は、特に明記しないかぎり筆者の現地調査で得たものである。海岸ツィムシアン語の現地調査は、文部（科学）省科学研究費補助金（特定領域研究(A)(2)「アラスカとカナダ北西部の先住民言語の緊急調査」#12039222、基盤研究(C)「品詞の通言語的研究」#22520414）の援助により、カナダ、プリティッシュ・コロンビア州ハートレイ・ベイおよびプリンス・ルパートにておこなわれた。調査に協力してくださった Mildred Wilson さん、Velma Nelson さんをはじめとする話者の方々に感謝したい。

しかしながら、これまでの調査において、名詞語幹と所有（人称）接尾辞の間に *k* または *k^h*（一部の例で *tk*）を観察することがあった。以下、名詞語幹と所有（人称）接尾辞の間にあらわれる要素を下線にて示し、*K* とグロスすることにする。

(5) *hà:s-k^w-u*
dog-K-1sg.Pos
 my dog

(6) *cám-k^h-ə-s* *Kayla*
jam-K-IV-Pos *Kayla*
 Kayla's jam

この要素は、*hà:s* のように阻害音で終わる名詞に後続する場合には無声無気音～半有声音の *k* [*k~g̊*]（または *tk* [*tk~tɕ̚*]）として⁵、*cám* のように共鳴音または母音で終わる名詞に後続する場合には無声有気音の *k^h* [*k^h*]としてあらわれる。

名詞と所有（人称）接尾辞の間にあらわれる要素については、Boas (1911) を除き、これまでほとんど記述がなされてこなかった。Boas (1911) は、名詞と所有（人称）接尾辞の間にあらわれる要素の形と機能について短い記述をおこなっているが、筆者が現地調査で二人の話者から得たデータはこれと多少異なるのみならず、二人の話者の間にも多少の差異がみられる。

本稿では、Boas をはじめとする先行研究が所有表現、そして問題の要素をどのように記述しているかを紹介（2節）したのち、筆者の得たデータにおけるこの要素の形とあらわれを観察し（3節）、最後に語形と機能・あらわれの変化について考察する。

5 例(5)における円唇化は後続の母音 *u* による。

2. 先行研究

海岸ツィムシアン語の所有表現についての記述を含む文献には、Boas (1911)、Dunn (1979)、Mulder (1994)、Stebbins (1999)、Sasama (2001)がある。これらにおいて、所有を表すのに用いられる接辞（所有接尾辞⁶と所有人称接尾辞、さらに可譲渡（分離）所有に用いられる所有接頭辞）の形といくつもの例があげられているが、Boas (1911)とSasama (2001)を除き、名詞と所有（人称）接尾辞の間にあらわれる要素についての記述はみられない。

Sasama (2001)は、この要素の存在を指摘し、この要素をとる名詞の例をあげるとともに、-k と -k^hがそれぞれあらわれる音韻的環境に触れている。しかし、そもそもどのような場合に -k/-k^hが用いられるかについては、「一部の名詞」としているにとどまる。

Boas (1911)は、名詞と所有（人称）接尾辞の間にあらわれる -k/-tk/-s に言及している。Boas は、海岸ツィムシアン語が分離可能な所有 (separable possession) とそうでない所有、さらに対象が有生 (animate) の所有と無生 (inanimate) の所有を区別すること、分離可能な所有は接頭辞 nə-によってマークされること、有生名詞を対象とする分離可能な所有は接頭辞 nə-と受動⁷の接尾辞 -k/-tk/-s、そして所有接尾辞⁸によって表されると述べている (pp.392-3)。

所有表現において、身体部位名称や親族名称など、所有者から切り離すことのできない対象の所有（不可譲渡所有 inalienable possession とも）と、それ以外の対象の所有（可譲渡所有 alienable possession）を区別する言語は世界に多くみられる。何を可譲渡所有／不可譲渡所有とするか、両者をどのような方法で区別するか等の詳細は言語によって異なるものの、北米先住民諸語にも可譲渡所有と不可譲渡所有を区別する言語は少なくない（例えば Mithun

6 所有接尾辞は、しばしば「所有連結辞 possessive connectives」と呼ばれ、ときとして接辞というよりはクリティックとみなされてきた（たとえば Dunn 1979や Stebbins 1999）。しかしながら筆者は、音韻規則や複合語形成等からみて、これらはクリティックではなく接辞とみなすべきと考える。「所有接頭辞」を接辞とみるかクリティックとみるかについても議論の余地があるが、紙面の都合上、これらについての詳しい議論は別稿にゆずりたい。

7 Boas はこれらの接尾辞を、中動的・半再帰的とも説明している (Boas 1911:354)。

8 所有人称接尾辞を含む。

1999:251ff 参照)。海岸ツィムシアン語では、すぐ上でも述べたように、接頭辞 $nə$ が分離可能な所有、すなわち可譲渡所有を表すと記述されてきた⁹。

Boas は、受動の接尾辞 $-k/-tk/-s$ のうち、 $-k$ は阻害音の後で、 $-tk$ は共鳴音と母音の後で、 $-s$ は軟口蓋・口蓋垂阻害音の後¹⁰ であらわれるとする。これは、筆者の観察した「阻害音の後では $-k$ 、共鳴音・母音の後では $-k^h$ 」とやや異なる。Boas のあげた 9 つの例のうちの 4 つを以下にあげる。本稿で用いた音素表記に合わせて筆者が表記を修正するとともに、グロスをつけた。(前節に引き続き、 $-k/-tk/-s$ にも K とグロスをつける。)

(7) $nə-hà:s-k^w-u$

Pos-dog-K-1sg.Pos

my dog

(8) $nə-hó:n-tk-ə-n$

Pos-fish-K-IV-2sg.Pos

thy salmon

(9) $nə-məʔf:k-s-u$

Pos-steelhead-K-1sg.Pos

my steelhead salmon

(10) $nə-cáp-s-u$

Pos-tribe-K-1sg.Pos

people of my village

(Boas 1911:393)

(7) と (10) は不可譲渡所有と考えることが可能かもしれないが、どちらにも可譲渡所有を表すとされる接頭辞 $nə$ がついている。なお、Boas はこの他に "my seal", "my bear", "my herring", "my bee", "people of my house" を例にあ

9 ただし Sasama (2001) は、 $nə$ の可譲渡所有表示機能がかなり弱まっていることを指摘している。これについては後でも触れる。

10 Boas の例をみるかぎりでは、両唇音の後にも $-s$ があらわれるようである。

げている。

3. 筆者の現地調査からのデータ

これまで筆者がおこなってきた現地調査において、所有表現の例を提供してもらった話者は2名いる。話者Aは、2005年まで10年以上にわたりコンサルタントとして調査に協力してくれた。彼女からは、多数の所有表現の例を得たが、そのうち-k/-k^hをとることが観察できた名詞は10数個であった。話者Bは、話者Aと同じ村の出身で、Aよりも数歳若い。Bには2010年はじめて調査に協力を依頼した。本節では、筆者がこの二人から得た所有表現を記述する。

3.1. 話者Aからのデータ

話者Aから得た所有表現のデータにおいて-k/-k^hをとることが観察できた名詞は10数個あった。その多くは、人称接尾辞や語彙の調査をおこなうなかで観察されたり、テキスト中にみつかったりしたものであり、この要素に焦点を当てた調査はごく短時間しかおこなっていない。

話者Aのデータにおいて、-k/-k^hをとることが観察された名詞は以下の通りである。なお、同じ名詞が異なる接尾辞とともに観察された場合（例えば、hà:s-k^w-u "my dog", hà:s-k-a kápətkú:tk "the kids' dog", hà:s-k-ə-s *Ken* "Ken's dog"）は、それらをすべてあげることはせず、基本的に一例をあげるにとどめた。所有者の人称・数、人称接尾辞／独立名詞の別などの条件は、-k/-k^hのあらわれに関係しないと思われる。

(11) hà:s-k^w-u

dog-K-1sg.Pos

my dog

(*hà:s-u)

- (12) tú:s-k^w-u
 cat-K-1sg.Pos
 my cat
- (13) ćú:ć-k^w-u
 bird-K-1sg.Pos
 my bird
- (14) tk^wuslǫ:s-k^w-u
 niece/nephew-K-1sg.Pos
 my niece/nephew
- (15) nə-pó:s-k^w-u
 Pos-boss-K-1sg.Pos
 my boss
- (16) su-*nurse*-k-ə-m
 new-nurse-K-IV-1pl.Pos
 our (new) nurse
- (17) *teacher*-k^h-ə-m
 teacher-K-IV-1pl.Pos
 our teacher
- (18) na-*honey*-k^h-ə-n¹¹
 Pos-honey-K-IV-2sg.Pos
 your honey (spouse or boy-/girlfriend)
- (19) nə-*doctor*-k^{wh}-u
 Pos-doctor-K-1sg.Pos
 my doctor

11 nə-は声門音 (? , h) の前では na-としてあらわれる。

- (20) *Martha-k^h-ə-m*
 Martha-K-IV-1pl.Pos
 our Martha
 (**Martha-m*)
- (21) *Chris-k-ə-m*
 Chris-K-IV-1pl.Pos
 our Chris
 (**Chris-ə-m*)
- (22) *cám-k^{wh}-u*
 jam-K-1sg.Pos
 my jam
- (23) *cherries-k-ə-s* ʔaput^há
 cherries-K-IV-Pos Abuta
 Abuta's cherries
- (24) a. *nə-wəné:ja-k^h-ə-t*
 Pos-food-K-IV-3Pos
 his/their (own) food
- b. *winé:ja-k^h-ə-s* *Norm*
 food-K-IV-Pos Norm
 Norm's groceries

-k/-k^hをとる名詞には、hà:s "dog", pós:s "boss"など有生のものが多いが、cám "jam", *cherries* など、無生名詞も観察された。中には、tk^wuslís:s "niece/nephew"や *honey* のように不可譲渡名詞とも考えられるものが含まれており、可譲渡所有を表すとされる nə-が用いられている例も少数であった。これらの例から、「nə-は可譲渡所有を、-k/-tk/-s は有生の可譲渡所有を表す」という原則がだいぶ変化してきていることが推察される。上にはあげていないが、

hó:n-u "my fish" (fish-1sg.Pos), nə-čáp-ə-n "your people, people of your tribe" (Pos-tribe-IV-2sg.Pos) のように、-k/-k^hをとらない有生名詞の例も得られている。

英語からの借用語が多く観察されたことも興味深い。話者 A から得た例の半数以上が英語からの借用語であった。

形の面ではどうだろうか。Boas が -k/-tk/-s の形をあげたのに対し、話者 A から観察された形は基本的に -k と -k^hであった。Boas が -k と -s があらわれるとした条件（阻害音の後）では -k が、Boas が -tk があらわれるとした条件（共鳴音・母音の後）では -k^hが観察された。一般の所有表現において -k/-k^h以外の形が観察されることはなかったが、次の例において -tk の形が観察された。(25)、(26)は過去および未来における所有を表しており、現時点でない（過去または未来の）所有に -tk を用いている可能性が考えられる。

(25) na-honey-tk^j-i = ta¹²

Pos-honey-K-1sg.Pos=Past

my deceased honey

(26) təm ti nə^ha-hó:n-tk-ə-s Lawrence tis Tory

Future on.its.part receptacle-fish-K-IV-Pos Lawrence and Tory

Lawrence and Tory's canned fish

(canned fish which is to be Lawrence and Tory's)

残念ながら話者 A は2006年に亡くなり、この点についてさらなるデータを集めることはできなくなってしまった。

12 1人称単数接尾辞は、否定・疑問・非現実等を表す文において -u のかわりに -i の形をとる。

3.2. 話者 B からのデータ

話者 B には2010年夏にはじめて調査への協力を依頼した。所有表現にあらわれる $-k/-k^h$ についてエリシテーションをおこない、有生・無生を問わず、日常的に用いられる名詞の所有表現を集めて、どの名詞に $-k/-k^h$ があらわれるかを観察した。その結果、予想していた以上にさまざまな名詞がこの要素をとることが明らかになった。この要素をとる名詞の多くは不可譲渡名詞であったが、有生名詞だけでなく無生名詞も数多くみられた。また、 $-k/-k^h$ に加え、Boas があげていた $-tk$ の形も観察された。

以下、身体部位名称、親族名称、その他の名詞に分けて例をみていく。

身体部位名称

身体部位名称は、親族名称とともに不可譲渡名詞の代表的なものである。2010年夏の調査において、日常的に用いられる身体部位名称の多くについて確認をおこなったが、 $-k/-k^h/-tk$ をとる例は全くみつからなかった。

- (27) $təmqaʷs-u$
 head-1sg.Pos
 my head
 ($*təmqaʷs-k^w-u$)

- (28) $wó:px-u$
 forehead-1sg.Pos
 my forehead
 ($*wó:px-k^w-u$)

- (29) $čəwá:l-u$
 finger-1sg.Pos
 my finger
 ($*čəwá:l-k^{wh}-u$)

- (30) wá:n-u
 teeth-1sg.Pos
 my teeth
 (*wá:n-k^{wh}-u)

親族名称

親族名称も不可譲渡名詞の代表的なものである。親族名称にも -k/-k^h/-tk をとる例は観察されなかった。話者 A から観察された tk^wuslɪ:s-k^w-u (上記例(14)) が、話者 B によって不可とされている (例(33)) ことに注意されたい。

- (31) ɬáms-u
 in-law-1sg.Pos
 my in-law
 (*ɬáms-k^w-u)
- (32) nəçí:ç-u
 grandmother-1sg.Pos
 my grandmother
 (*nəçí:ç-k^w-u)
- (33) tk^wuslɪ:s-u
 niece/nephew-1sg.Pos
 my niece/nephew
 (*tk^wuslɪ:s-k^w-u)

一部の親族名称については、筆者が -k/-k^h/-tk をつけた所有表現を提示したところ、話者 B によって複数と解釈された。例(34)と(35)はそうした例のうちの一つである。いずれも単数と解釈するには無理があるという。単数の所有を表す上の例(31)・(32)と比較されたい。(36)には -s が用いられている。

- (34) $\text{fáms-k}^w\text{-u}$
 in-law-K?-1sg.Pos
 my in-laws (*my in-law)
- (35) $\text{qa-nə́c̣í:c̣-k}^w\text{-u}$
 pl-grandmother-K?-1sg.Pos
 my grandmothers (*my grandmother)
 (? $\text{nə́c̣í:c̣-k}^w\text{-u}^{13}$)
- (36) fək-fká:wk-s-u
 Rdp-sister-K?-1sg.Pos
 my sisters

その他の名詞

身体部位名称、親族名称以外の名詞の所有表現を調べたところ、 hà:s のような有生名詞以外にも、 $-k/-k^h/-tk$ をとる例がいくつも得られた。まず、有生名詞の例をあげる。(39)のように、 $-k/-k^h/-tk$ あり・なしの両方が観察されたケースもあった。

- (37) $\text{hà:s-k}^w\text{-u}$
 dog-K-1sg.Pos
 my dog
- (38) $\text{tú:s-k}^w\text{-u}$
 cat-K-1sg.Pos
 my cat
- (39) a. $\text{fk}^w\text{u:fk-ə-m-c̣ú:c̣-k}^w\text{-u}$
 child-IV-Comp-bird-K-1sg.Pos
 my pet bird

13 複数接頭辞の qa -をつけずに $\text{nə́c̣í:c̣-k}^w\text{-u}$ とすることも不可能ではないが、 qa -と $-k$ を同時につけた方がよいという。

b. ʔk^wu:ʔk-ə-m-čú:c̣-u
 child-IV-Comp-bird-1sg.Pos
 my pet bird

(40) nə-tókt^ha-k^{wh}-u
 Pos-doctor-K-1sg.Pos
 my doctor

(41) na-honey-k^{wh}-u
 Pos-honey-K-1sg.Pos
 my honey (spouse or boy-/girlfriend)

次に無生名詞の例をあげる。-k/-k^h/-tk をとる無生名詞には、英語からの借用語または英語からの借用語を含むものがきわめて多くみられた。これらには、lá:m (rum から)、tá:la (dollar から)、swíti:/swíti:s (sweetie から) のように音韻的に海岸ツィムシアン語化されたものもあれば、cookies, wreath のように英語発音のまま用いられているものもあった。

(42) wap-lá:m-k^h-ə-s John
 house-liquor-K-IV-Pos John
 John's liquor store
 (*wap-lá:m-s John)

(43) a. nət^ha-tá:la-s mé:li
 receptacle-money-Pos Mary
 Mary's purse
 b. nət^ha-tá:la-k^h-ə-s mé:li
 receptacle-money-K-IV-Pos Mary
 Mary's purse

- (44) a. swí:ti:-k^h-ə-s mé:li
 candy-K-IV-Pos Mary
 Mary's candies
- b. swí:ti:s-k-ə-s mé:li
 candy-K-IV-Pos Mary
 Mary's candies
- (45) pí:ns-k^w-u
 beans-K-1sg.Pos
 my beans
- (46) *cookies*-k^w-u
 cookies-K-1sg.Pos
 my cookies
- (47) *wreath*-k^w-u
 wreath-K-1sg.Pos
 my wreath

一方で、同じ無生名詞でも、古くから使われていたと思われる語には、-k/-k^hをとらないものが多かった。次にあげる名詞は Beynon (1932-1939)や Boas (1912)にもみられ、少なくとも100年以上は使われてきたと考えられる。

- (48) wá:p-u
 house-1sg.Pos
 my house
 (*wá:p-k^w-u)

- (49) $\acute{c}ó:xs-u$
 shoes-1sg.Pos
 my shoes
 ($*\acute{c}ó:xs-k^w-u$)

- (50) $\acute{c}álá:ju$
 basket-1sg.Pos
 my basket
 ($*\acute{c}álá:k^{wh}-u$)

このことから、以前は有生の可譲渡所有に限られていた $-k/-k^h/-tk$ の使用が、近年、とりわけ英語からの借用語を中心に、無生名詞にまで広がってきていることが推測される。

形の面ではどうだろうか。話者 A は、基本的に $-k/-k^h$ を用い、発話時点よりも過去または未来の所有を表すときにのみ $-tk$ を用いていた。しかし、現在の所有を表すいくつかの例において、話者 B が $-k^h$ のかわりに $-tk$ を用いるのが観察された。いずれも共鳴音の後であった。

- (51) a. $cám-k^{wh}-u$
 jam-K-1sg.Pos
 my jam
 b. $cám-tk-ə-s$ $mé:li$
 jam-K-IV-Pos Mary
 Mary's jam
- (52) a. $ice\ cream-k^{wh}-u$
 ice.cream-K-1sg.Pos
 my ice cream

- b. *ice cream*-tk^w-u
 ice.cream-K-1sg.Pos
 my ice cream

- (53) nə-mé:l-tk-ə-s mé:li
 Pos-mail-K-IV-Pos Mary
 Mary's mail

4. まとめ

以上、名詞と所有（人称）接尾辞の間にあらわれる要素について、Boas (1911) の記述および筆者が二人の話者から得たデータをもとに、どのような形がどのような場合にあらわれるかをみてきた。その結果、以下のことが観察された。

形について Boas があげている -k/-tk/-s に対し、現在観察される形は -k/-k^h/-tk である。Boas が共鳴音の後にあらわれると述べた -tk は、現在ではほとんど有気音の -k^h にとってかわられている。現在、-tk は共鳴音のあとにまれに用いられる一方で、話者によっては過去または未来の所有を表す場合にのみ用いるようである。

機能・あらわれについて Boas は有生名詞の可譲渡所有を表すのに用いられる要素としているが、現在では厳密に有生名詞の可譲渡所有を表す要素ではなくなっている。不可譲渡名詞である身体部位名称・親族名称の所有表現には今も -k/-k^h/-tk がほとんど全く用いられないことから、この要素は現在も可譲渡・不可譲渡の区別をある程度は示していると思われる。とはいえ、可譲渡名詞でありながら -k/-k^h/-tk をとらない例 ("fish") や、不可譲渡名詞でありながら -k/-k^h/-tk をとる例 ("honey", "pet bird") もみられ、この区別が厳密におこなわれているとはいえない。

これは、現在の海岸ツィムシアン語における所有接頭辞 *na-* のあらわれとも関連しよう。*na-* は、可譲渡所有を表す要素とされてきたが、現在では可譲渡所有でありながらこれをとらない例が数多く観察される。逆に、不可譲渡所有にもかかわらず *na-* が用いられている例もみられる。

有生・無生の別は、さらに曖昧になっている。近年のデータをみるかぎりでは、*-k/-k^h/-tk* のあらわれを有生・無生の別と関連づけるのはかなり難しいと思われる。それでは、*-k/-k^h/-tk* のあらわれには他にどのような要因が関係しているのだろうか。

今後さらなるデータを集めて確かめる必要があると思われるのは、海岸ツィムシアン語固有の語／借用語の別、および音韻的な要因である。2010年夏にこの要素のエリシテーションをおこなった際に目を引いたのは、英語からの借用語に *-k/-k^h/-tk* がつく例がきわめて多く観察されたこと、そして *s* や *m* で終わる名詞には *-k/-k^h/-tk* がつきやすいことであった。*-k/-k^h/-tk* のあらわれが、語種や音韻的要因によるものへと変化してきている可能性がある。

多くの話者たちがこの要素を用いていることは観察しているが、方言差も個人差もあるであろう。できるだけ多くの話者の協力を得て、現在この要素のあらわれがどうなっているのか、そして今後どのように変化していくのか、調べることをこれからの課題としたい。

記号・略号一覧

- affix boundary	= clitic boundary	1/2/3 1 st /2 nd /3 rd person
Comp compound	IV inserted vowel	pl plural
Pos possessive	Rdp reduplication	sg singular

参考文献

Beynon, William, 1932-1939, "Tsimshian Texts," ms., Special Collections, Columbia University Archives, New York.

- Boas, Franz, 1911, "Tsimshian," in Franz Boas (ed.), *Handbook of American Indian Languages Part 1*, Bureau of American Ethnology, Bulletin 40, 283-422.
- , 1912, "Tsimshian Texts (New Series)", *Publications of the American Ethnological Society* 3, E. J. Brill, Leyden, 65-285.
- Dunn, John A., 1979, *A Reference Grammar for the Coast Tsimshian Language*, National Museum of Man, Mercury Series, Canadian Ethnology Service Paper No. 55, National Museums of Canada, Ottawa.
- Mithun, Marianne, 1999, *The Languages of Native North America*, Cambridge University Press, Cambridge.
- Mulder, Jean G., 1994, *Ergativity in Coast Tsimshian (Sm'algyax)*, University of California Publications in Linguistics Vol. 124, University of California Press, Berkeley/Los Angeles/London.
- Sasama, Fumiko, 2001, "A Descriptive Study of the Coast Tsimshian Morphology," Lit. D. dissertation, Kyoto University.
- Stebbins, Tonya N., 1999, "Issues in Sm'algyax (Coast Tsimshian) Lexicography," Ph.D. dissertation, The University of Melbourne.